

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2009.9 vol.42

利益相反とは？

皆さんは、「利益相反」という言葉を聞かれたことがありますか。英語ではConflict of Interest (COI) と言います。「厚生労働科学研究における利益相反(Conflict of Interest: COI)の管理に関する指針」によれば、利益相反とは「外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が、損なわれる、又は損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態」を言います。「李下に冠を正さず」や「瓜田に履を納れず」という諺がある様に、第三者から疑いをかけられる様な事はしないに越したことはありません。特に、治験の様に結果次第では新薬承認によって数千億円市場が発生する可能性のある分野においては、関係者は襟を正す必要があると思います。

利益相反はいつごろから社会的な問題となってきたのでしょうか。1999年、アメリカのペンシルバニア大学でオルニチン・カルバミラーゼ遺伝子治療の臨床試験の被験者であった18才の青年が臨床試験の途中で死亡しました。青年の両親が調べてみると、この臨床試験が説明されていた内容に比較して安全ではないこと、この研究の責任医師が、遺伝子治療の依頼者である企業の株を多数持っていたことが分かり、「ジェシー・ゲルシンガー事件」として社会的な問題となりました。

日本では科学技術創造立国を目指した産学連携活動が推進されています。産学連携活動が活発になればなるほど、医師や研究者が企業から研究費や正当な報酬を受ける機会が増えます。その結果、臨床研究を推進することによる社会的な貢献と、研究費や報酬としての経済的利益が衝突・相反す

る状態が必然的に起こって来ます。利益相反の対象となる研究者をすべて当該研究から排除しようとすれば、利益相反の問題はなくなりますが、活発な研究を行っている人物を排除することになり、臨床研究の発展にとっては逆効果になります。アメリカにおける検討でも、利益相反そのものが問題になることはあまりなく、利益相反が明確にされていないか、もしくは管理されていない場合に問題が発生すると言われていています。つまり利益相反自体が悪いのではなく、それに伴って第三者からの不信が発生するということが問題になると考えられます。

さて、利益相反に関することで懸念すべき事項は、平成22年度までに利益相反委員会が設置されていない施設には、厚生労働省科学研究費補助金が交付されなくなるということです。これに対処するために当院では「独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センターにおける研究に関する利益相反管理規程」、「同研究利益相反審査委員会規程」、「同研究利益相反審査委員会手順書」、「研究利益相反(COI)報告書」、「研究利益相反審査委員会異議申立書」を策定し、7月の管理診療会議で認めていただきました。倫理審査が必要な臨床研究の研究計画書を、倫理審査委員会に提出する時は「研究利益相反(COI)報告書」も一緒に提出していただく様にお願い致します。



臨床研究部 城ヶ崎倫久

診療ひとくちメモ

SCU (Stroke Care Unit 脳卒中ケアユニット)

脳卒中急性期の治療に欠かせないのがSCU (Stroke Care Unit 脳卒中ケアユニット)です。

現在の世界の趨勢として脳卒中急性期の治療成績を上げるためには、SCU又はSU (Stroke Unit 脳卒中病棟) での治療が重要とされています。SUによる治療は一般病棟での治療よりも治療効果が高く、死亡は3%減り、自宅退院が3%増え、自立患者は6%増える、というデータがあります。

脳卒中の急性期治療には、脳血管内科医、脳神経外科医、看護師、PT (理学療法士)、OT (作業療法士)、ST (言語療法士)、薬剤師、栄養士など多職種による集中的な治療が重要というわけです。このためSCUの設置基準も、必要な(専門の)医師が常時配置されていること、3:1看護、常勤のPT又はOTが配置されていること、十分な専用施設、器械・器具を有していること、など人の配置に関する基準が重視されたものとなっています。

SCUと似たような名前を持つものとして、ICU、CCUなどがありますが、SCUにはこれらのものとは大きく異なる点があります。

ICU、CCUは種々のモニター類を元に患者の病態を観察、把握し、病態の変化に素早く対応できることが大きな特徴となっています。ところが脳卒中の急性期治療に重要なデータ(観察ポイント)は、意識状態、失語などの皮質症候、麻痺の程度、瞳孔、眼位 etc. モニターでは把握できない要素が多く、人による観察が欠かせません。



またSCUの入室条件に重症度は関係ありません。脳卒中の急性期には症状が急激に変化することが多く、入院時の重症度では病態の進行が予測できないため、軽症でも急性期には入室の適応となります。

当院のSCUは鹿児島県下第1号として平成19年4月に3床でスタートしました。昨年5月からは6床で運用しており、最近の平均在室日数は5.9日、稼働率は98%となっています。

脳血管内科部長 濱田陸三

新任紹介



脳血管内科 医師

とまり 泊
しんや 晋哉

8月より脳血管内科に赴任いたしました。医師として5年目であり、仕事を通じてこれから多くのことを学んでいきたいと思っております。至らない点があると思いますが、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



第二循環器科 医師

よししげ ゆうすけ
吉重 祐介

平成21年7月より県立薩南病院から第二循環器科に赴任となりました。こちらで働かせて頂くのは今回で3度目になります。頑張りますので宜しくお願いします。

お知らせ

地域医療連携室よりお知らせ

当院は平成18年2月に地域医療支援病院の承認を得ました。それに伴い、開放型病院として、病院の施設・設備を開放し、登録医の先生方に利用していただき、地域で包括的で一貫性のある安全で良質な医療を提供する事を目標としております。

そのなかで、開放型病床としては370床のうち5床を準備しております。

実際のご利用方法としては、登録医の先生方が診ておられる患者様が、入院治療の必要となった場合、患者様に診療費の説明等をしていただいて承諾を得たのち、当院の「開放型病床」に入院していただき、当院の主治医と共同で診察していただくことができます。



MRI

大型医療機器としてはCTやMRI・RI・血管連続撮影装置などの利用が可能です。検査データ等は地域医療連携室より送付させていただきます。

「開放型病床」「大型医療機器」をご利用いただくには「登録医」になっていただく必要があります。ご利用をお考えの先生には、申請の手続き、開放型病床・及び大型医療機器のご利用手順・申込の説明をいたしますので、地域医療連携室までご連絡ください。

また、地域がん診療拠点病院としてがん相談の強化を図る目的で看護師・心理療法士・医療ソーシャルワーカーをそれぞれ1名ずつ配置し『がん相談支援センター』を立ち上げました。主に相談業務や情報の収集、提供を行います。がんに対する問い合わせにはどんなことにも積極的に関わっていきたく思いますので、お気軽にご利用下さい。

連携室として、またがん相談支援センターとしてまだまだ未熟であり、役割を十分果たしているとは言えませんが、地域の医療機関との連携を深め皆様と共に成長、発展していきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見、ご指導と共にご協力を宜しくお願い致します。



CT



RI

講演会のおしらせ

テーマ「**当院における外来化学療法の現状**」

内 容：当院はがん拠点病院として、多くのがん患者さんが療養されています。家庭で過ごしながら化学療法を受けられるように整えた設備の中で、がん化学療法看護認定看護師が患者さんの治療のお世話をしています。今回は現状と今後の課題について講演します。

日 時：平成21年9月25日(金) 17時半～18時半

場 所：鹿児島医療センター会議室

講 師：がん化学療法看護認定看護師 徳永 志保

ご参加希望者は下記までご連絡ください。

TEL:099(223)1151(内線7264) 教育担当 深川

看護部教育委員会

編 集 後 記

9月に入り、暑さも一段落でしょうか。長年住み慣れた沖縄では9月はまだまだ夏真っ盛りなので、夏が大好きな私としては少し寂しい感じがします。

沖縄ではこの時期エイサーやオリオンビアフェストなど様々なイベントが開催されます。なかでもウチナーンチュが張り切るのがビーチパーティー。本土で言ったらお花見みたいな感じでしょうか。各職場や仲間内で開催して、ビーチで遊んだりバーベキューをしたりします。多い人は毎週のようにいろんなところに参加します。前任地の沖縄病院でも毎年開催され、今年も私は鹿児島から参加

てきました。

沖縄の、どのビーチでもいっぱいビーチパーティーが行われているので、この時期に旅行で沖縄のビーチに行かれた方は見られた方も多いのではないのでしょうか。

ただ、一日中行われるビーチパーティーでも、人が集まるのは日が暮れて多少涼しくなってから。こんなところにもウチナータイムというのんびりとした沖縄人氣質が表れていると思います。沖縄を訪れるときにはおらかな気持ちで是非。

担当：井上

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246

<http://www.kagomc.jp>

脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】濱田・大渡・井上・中島・田添・吉留・善福
直接電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

